

旭川野外彫刻マップ

たんさく

旭川彫刻サポート隊

旭川は“彫刻のまち”と呼ばれ、街中や公園に約100基の野外彫刻があります。四季折々の自然の中、地図を手に「彫刻」に会いにでかけてみよう。新しい風景がみえてくるかもしれません。

歩いて観よう!

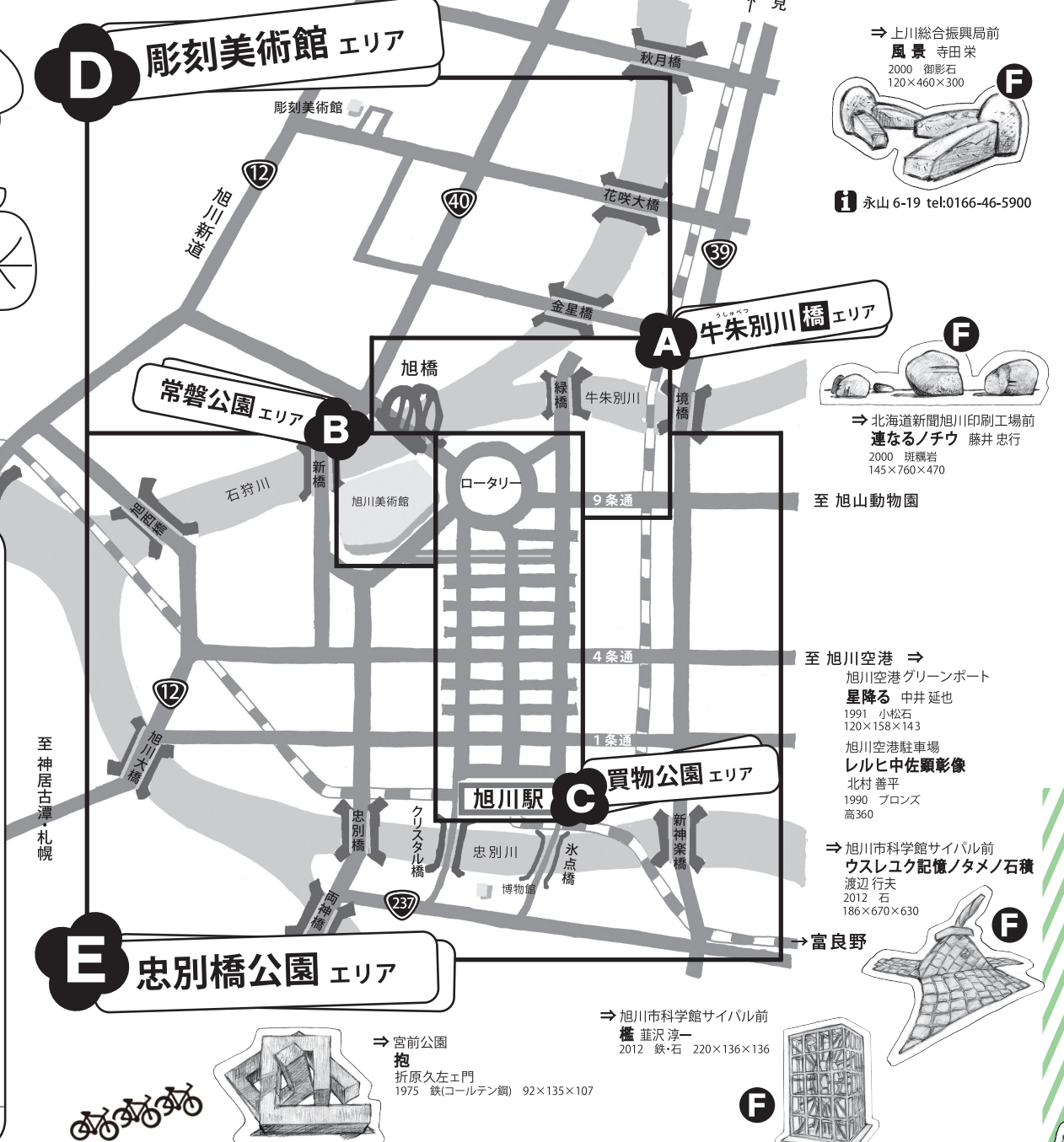
● 見つけた彫刻をチェックしよう。

どうしてたくさんあるの

旭川が“彫刻のまち”となった原点には彫刻家・中原悌二郎（なかはらていじろう）の存在があります。悌二郎はロダンの影響のもと優れた作品を制作し、32歳の若さで亡くなりましたが、その作品は日本の近代彫刻史において重要な位置を占めています。1962年、加藤謙清の尽力によって悌二郎の作品が帰郷を果たしたことから、旭川は“彫刻のまち”としての歩みをはじめ、1970年には中原悌二郎賞★を創設して優れた作品の収集につとめます。1972年、日本初の歩行者天国として注目を集めた買物公園に彫刻を設置し、その後も公園、広場、橋など身近な都市空間の中で彫刻に親しめる街づくりを進めたことから「行政が彫刻と積極的にかかわる先駆的な役割を果たしているまち」という認識が全国に広がりました。1994年には旭川市彫刻美術館が開館し、2000年にスタートした彫刻フェスタ★では公開参加型制作によって、作家と市民が直接出会う新たな場を創造してきました。こうした長年の活動が実を結び、現在では彫刻美術館、道立旭川美術館、北海道療育園など市内各所で彫刻を見ることができ“彫刻のまち”となりました。2002年には野外彫刻の清掃活動を行うボランティア組織・旭川彫刻サポート隊★が発足し、彫刻ファンど市民の会など市民の自発的な彫刻との関わりが広がり、私たちの暮らしの中に彫刻が溶け込んでいます。このマップの制作もその一つです。



- 主要道
 - サイクリングロード
 - 河川
 - 駐車場
 - トイレ
 - 自転車ショップ
 - コーヒーズ
 - ガソリンスタンド
 - 郵便局
 - ホテル
 - コンビニ
 - 道内ゆかりの作家作品
 - 道外の作家作品
 - 彫刻フェスタ作品
 - 中原賞作品
 - 中原賞作品(代替)
 - 優秀賞作品
 - 優秀賞作品(代替)
 - その他の彫刻
- 作品データ記載例
No. 作品名 作家名
制作年 材質 サイズ(高×幅×奥行cm)



A 牛朱別川橋エリア

旭橋から緑橋へ抜けると、昭和レトロな風景が広がる牛朱別川河川敷が広がります。6本の内4本の橋に彫刻が設置され、水音をBGMに橋越しにも彫刻の姿が堪能できます。晴れた日には大雪山が一望できる絶好のビュースポット。



たんさく モデルコース

常磐公園 → 旭橋下CR → 牛朱別川CR → 緑橋 → 永隆橋 → 日之出橋 → 新成橋 → 牛朱別川CR戻り → 常磐公園
旭川駅 → 常磐公園 (徒歩: 約20分, 自転車: 約15分)



32 裸婦立像 木内克
1961 ブロンズ 180×101×52
立像。大雪山が背景に描かれている。彫刻の中心には裸婦の姿が描かれている。木内克の代表作の一つ。

33 裸婦 木内克
1968 ブロンズ 89×39×37.5
立像。大雪山が背景に描かれている。彫刻の中心には裸婦の姿が描かれている。木内克の代表作の一つ。

34 雫の雫 山内壮夫
1957 ブロンズ 83×120×43
「雫の雫」シリーズの1点で、一番小さく複雑な形をしている初期の作品。

35 風の中の母子像 山内壮夫
1955 ブロンズ 152×42×30
子を抱き上げた母の姿を半具象的に表現している。同じ作品が療育園の木の立の中にもある。環境の違う作品の見え方がどう変わるかを見比べるのも良い。

24 人間の森 O.ザッキン
1957 ブロンズ 230×120×80
1975年、西武デパートがオープンを記念して旭川市に寄贈しました。人が重なりあって天にエネルギーを発している。「設置当時のパワーと勇気を街中に！」と願いをこめてお手入れしています。

22 行列 三木俊治
1989 ブロンズ・コルテム 300×600×150
インドでたくさんの人々が行列をなしている光景から生まれた「行列」シリーズ。一つの地球の様々な場所の人たちがそれぞれの今を生きている。フラットで広い面積をむらなくお掃除すると緊張感が見えなくなるため翌日の筋肉痛も恐れず眺めます。

20 生きる 空充秋
1989 青木石 435×300×130
石が自ら立ち上がり、くわのように力強く組み上げられています。作者は「人は宇宙の中で自然と調和し生きていく。その変遷を石自体の力をあわせて表現したい」と話しています。

21 地 空充秋
1984 白彫石 150×250×120
石が自ら立ち上がり、くわのように力強く組み上げられています。作者は「人は宇宙の中で自然と調和し生きていく。その変遷を石自体の力をあわせて表現したい」と話しています。

3 希望 笹千津子
1989 ブロンズ 高150
男子「僕たちは旭川金創膏70周年を記念して制作されました」女子「旭川金創膏は各支店に子どもたちの彫刻があります。探してみてください」

1 若い女 佐藤忠良
1971 ブロンズ 174.5×103.5×58
「こんにちは。私、「彫刻のまち」の看板モデルです。テレビや写真で旭川が紹介される時は必ず私に出演依頼がきたのよ。買物公園のオープンを記念して北海道銀行から寄贈され、ずっと街を見守ってきたのよ」

23 雄弁 E.A.ブルル
E.A.ブルル
「はるばるこの地にやってきました。アルゼンチンの将軍像にお仕える4人組の従者の一人です。福岡市博覧会ではブルル、北海道は収集していただきました。北海道の各美術館に1人ずつ派遣されました。彼のメンバームとどうぞお見知りおきを」

2 サクソフン吹きと猫 黒川晃彦
2001 ブロンズ 103×210×150
「僕は、ここでは新参者。買物公園リニューアルの時に来たからね。でも今は一歩の人氣者。みんな僕と写真を撮った。猫をなでたりしてくれる。寒い冬にマフラーを巻いてくれる人も。ここにきて良かったな」

4 若い女 夏 佐藤忠良
1972 ブロンズ 149×75×53
「このブロンズはあかしら70年代には現代女性の美を表現していたと絶賛されたのよ。当時、全国各地の婦人たちが立ち上がった。私はこの地でポスターをしていただき美を保っています」

5 開拓のイメージ 中井延也
1972 鋼(コルテム) 2100×85×85
高さ21mのシンボルタワー。買物公園のオープンに合わせて設置されました。車輪、蹄鉄、アーク、かんじきなど開拓時を偲ばせる道具が彫り込まれています。差別可出席で彫りに数多くの作品があります。

7 手 木内禮智
1972 ブロンズ 250×350×100
買物公園のオープンとともに4条に設置された。街中のオアシスとして多くの人が集まり、シンボリック存在と言われました。現在は買物公園の起点、8条通で静かに街を見守っています

11 青年像 新田実
1961 ブロンズ 190×57×60
「私が旭川市の野彫第1号の「青年」です。半世紀前の青年会議所の皆さんの目にまじり寄贈されました。野島にも愛され、近所の方には「ワックワックと鳴る鳥」がつくど鳴と噂されました。お掃除回数一位7とか」

B モデルコース

旭川駅 → 常磐公園 (徒歩: 約20分, 自転車: 約15分)
7条緑道 → 常磐公園入口 → 常磐公園一周 → 旭橋下サイクリングロード → 緑橋 (Aコースへ)



26 風の塔 No.8 大成浩
1987 彫刻石 240×200×120
小高い丘の上におり、遠くから眺めると、近づいた時の視点の変化を楽しめます。石の間で、ひんやりと静かな感じを味わうのも心地よし。

25 風雪の群像 本郷新
1970 ブロンズ 230×201×241
大木・明星・コタン・音吉・怒涛の5体からなる北海道開拓記念像です。この内コタンをめぐって論争が起き、1972年には爆破事件が発生しました。現在の像は1977年に再建されたものです。

19 永山武二郎の像 北村西望
1967 ブロンズ 294×107×129
「高い所から失礼します。私、屯田兵本部長、第二代北海道庁長官、第七師団長を歴任しました。高過ぎる場所にいるせいで中々綺麗に出来ていません。長らく汚れていましたが、大がかりな洗浄してもらいピカピカになりました」

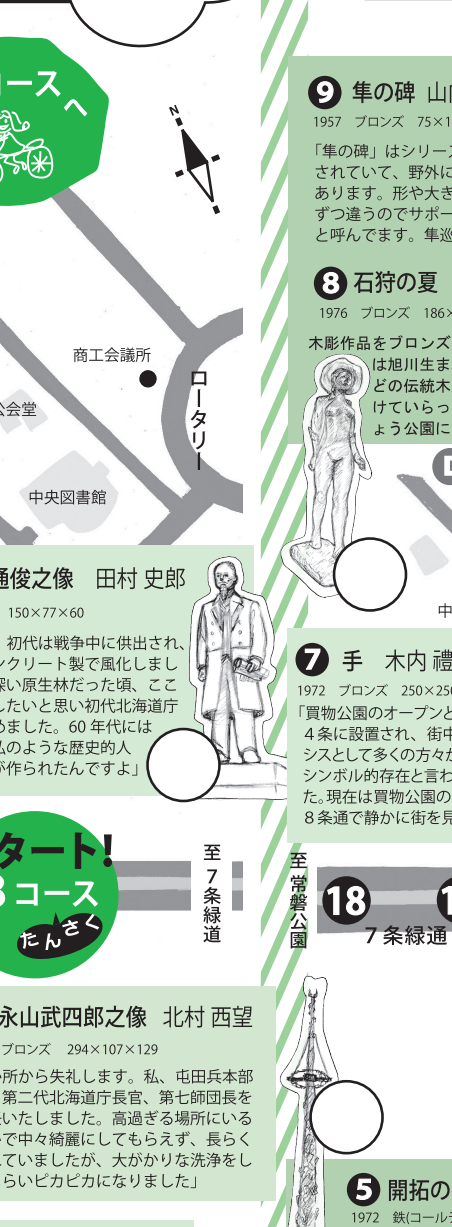
28 岩村通俊の像 田村史郎
1990 ブロンズ 150×77×60
三代目です。初代は戦争中に供出され、二代目はコンクリート製で風化しました。土が深い原生林だった頃、ここを北に京にしたいと思いついた北海道庁長官など務めました。60年代には全国各地で私のような歴史的人物の顕彰像が作られたんですよ

8 矢野の夏 善本秀作
1976 ブロンズ 186×50×40
木彫作品をブロンズにしています。作者は旭川生まれ。富山県で像などの彫刻を中心に制作を続けていらした作家です。ごりよう公園にも作品あり。

9 雫の雫 山内壮夫
1957 ブロンズ 75×150×70
「雫の雫」はシリーズで制作されていて、野島には3点あります。形や大きさが少しずつ違うのでサポート隊で父、母、子と呼んでいます。車道はほかほかです

C 常磐公園エリア

旭川駅 → 買物公園 → 8条緑道 → 9条通 → 緑橋通 → 市役所前 → 7条緑道 → 常磐公園 (Bコースへ)



6 鳥人譜 一色邦彦
1979 ブロンズ 80×50×48
「以前は緑橋通にいた。商店街の毎日がきれいにしてくれたのよ。肩に乗っているのは鳩。私は市内の6つのロータリークラブの方々に(平順)の像像にひたりたりと寄贈されました。私も皆さんの願いを担うつもりです。ロータリーの方、送っていただきありがとうございます」

10 鶴の記 藤井忠行
2002 白彫石 194×180×364
北風の暮らしを支え、子どもたちの遊び道具として生活に根ざしていた「鶴(トビ)」。元気に飛翔を志す姿を表現しています。

12 婦人像・裸立像
1938 ブロンズ 164×45×39
1964 ブロンズ 170×41×36
1963 ブロンズ 100×80×65

14 男子座像
1965 ブロンズ 170×37×41
1961 ブロンズ 95×45×110
1960 ブロンズ 170×37×41

15 思惟像
1961 ブロンズ 95×45×110
1960 ブロンズ 170×37×41
1963 ブロンズ 170×37×41

16 人間像・青年
1960 ブロンズ 170×37×41
1961 ブロンズ 172×63.5×53
1963 ブロンズ 170×37×41

買物公園エリア

旭川駅 → 買物公園 → 8条緑道 → 9条通 → 緑橋通 → 市役所前 → 7条緑道 → 常磐公園 (Bコースへ)



18 人間の森 O.ザッキン
1957 ブロンズ 230×120×80
1975年、西武デパートがオープンを記念して旭川市に寄贈しました。人が重なりあって天にエネルギーを発している。「設置当時のパワーと勇気を街中に！」と願いをこめてお手入れしています。

22 行列 三木俊治
1989 ブロンズ・コルテム 300×600×150
インドでたくさんの人々が行列をなしている光景から生まれた「行列」シリーズ。一つの地球の様々な場所の人たちがそれぞれの今を生きている。フラットで広い面積をむらなくお掃除すると緊張感が見えなくなるため翌日の筋肉痛も恐れず眺めます。

20 生きる 空充秋
1989 青木石 435×300×130
石が自ら立ち上がり、くわのように力強く組み上げられています。作者は「人は宇宙の中で自然と調和し生きていく。その変遷を石自体の力をあわせて表現したい」と話しています。

21 地 空充秋
1984 白彫石 150×250×120
石が自ら立ち上がり、くわのように力強く組み上げられています。作者は「人は宇宙の中で自然と調和し生きていく。その変遷を石自体の力をあわせて表現したい」と話しています。

3 希望 笹千津子
1989 ブロンズ 高150
男子「僕たちは旭川金創膏70周年を記念して制作されました」女子「旭川金創膏は各支店に子どもたちの彫刻があります。探してみてください」

1 若い女 佐藤忠良
1971 ブロンズ 174.5×103.5×58
「こんにちは。私、「彫刻のまち」の看板モデルです。テレビや写真で旭川が紹介される時は必ず私に出演依頼がきたのよ。買物公園のオープンを記念して北海道銀行から寄贈され、ずっと街を見守ってきたのよ」

旭川駅

旭川駅 → 買物公園 → 8条緑道 → 9条通 → 緑橋通 → 市役所前 → 7条緑道 → 常磐公園 (Bコースへ)



24 人間の森 O.ザッキン
1957 ブロンズ 230×120×80
1975年、西武デパートがオープンを記念して旭川市に寄贈しました。人が重なりあって天にエネルギーを発している。「設置当時のパワーと勇気を街中に！」と願いをこめてお手入れしています。

22 行列 三木俊治
1989 ブロンズ・コルテム 300×600×150
インドでたくさんの人々が行列をなしている光景から生まれた「行列」シリーズ。一つの地球の様々な場所の人たちがそれぞれの今を生きている。フラットで広い面積をむらなくお掃除すると緊張感が見えなくなるため翌日の筋肉痛も恐れず眺めます。

20 生きる 空充秋
1989 青木石 435×300×130
石が自ら立ち上がり、くわのように力強く組み上げられています。作者は「人は宇宙の中で自然と調和し生きていく。その変遷を石自体の力をあわせて表現したい」と話しています。

21 地 空充秋
1984 白彫石 150×250×120
石が自ら立ち上がり、くわのように力強く組み上げられています。作者は「人は宇宙の中で自然と調和し生きていく。その変遷を石自体の力をあわせて表現したい」と話しています。

3 希望 笹千津子
1989 ブロンズ 高150
男子「僕たちは旭川金創膏70周年を記念して制作されました」女子「旭川金創膏は各支店に子どもたちの彫刻があります。探してみてください」

1 若い女 佐藤忠良
1971 ブロンズ 174.5×103.5×58
「こんにちは。私、「彫刻のまち」の看板モデルです。テレビや写真で旭川が紹介される時は必ず私に出演依頼がきたのよ。買物公園のオープンを記念して北海道銀行から寄贈され、ずっと街を見守ってきたのよ」

旭川観光物産情報センター

旭川観光物産情報センター (旭川駅内) tel. 0166-26-6665



1 若い女 佐藤忠良
1971 ブロンズ 174.5×103.5×58
「こんにちは。私、「彫刻のまち」の看板モデルです。テレビや写真で旭川が紹介される時は必ず私に出演依頼がきたのよ。買物公園のオープンを記念して北海道銀行から寄贈され、ずっと街を見守ってきたのよ」

2 サクソフン吹きと猫 黒川晃彦
2001 ブロンズ 103×210×150
「僕は、ここでは新参者。買物公園リニューアルの時に来たからね。でも今は一歩の人氣者。みんな僕と写真を撮った。猫をなでたりしてくれる。寒い冬にマフラーを巻いてくれる人も。ここにきて良かったな」

4 若い女 夏 佐藤忠良
1972 ブロンズ 149×75×53
「このブロンズはあかしら70年代には現代女性の美を表現していたと絶賛されたのよ。当時、全国各地の婦人たちが立ち上がった。私はこの地でポスターをしていただき美を保っています」

5 開拓のイメージ 中井延也
1972 鋼(コルテム) 2100×85×85
高さ21mのシンボルタワー。買物公園のオープンに合わせて設置されました。車輪、蹄鉄、アーク、かんじきなど開拓時を偲ばせる道具が彫り込まれています。差別可出席で彫りに数多くの作品があります。

7 手 木内禮智
1972 ブロンズ 250×350×100
買物公園のオープンとともに4条に設置された。街中のオアシスとして多くの人が集まり、シンボリック存在と言われました。現在は買物公園の起点、8条通で静かに街を見守っています

11 青年像 新田実
1961 ブロンズ 190×57×60
「私が旭川市の野彫第1号の「青年」です。半世紀前の青年会議所の皆さんの目にまじり寄贈されました。野島にも愛され、近所の方には「ワックワックと鳴る鳥」がつくど鳴と噂されました。お掃除回数一位7とか」

旭川観光物産情報センター (旭川駅内) tel. 0166-26-6665

